

—編集後記—

今号は通気、出芽といったトピックが取り上げられた号となっています。土壌物理は、これらの問題に古くから関わってきたのですが、残念ながら最近ではそれほど土壌物理の中心的なトピックとはなっていないようにみえます（農学としては広く研究されていますが）。降水量の多いわが国においては、水不足の解消（かんがい）と同程度に水過剰による通気阻害の回避（排水）が重要となる場面が非常に多くなっています。東洋医学では、水が体に過剰に溜まり害を及ぼしている状況を「水毒」と呼ぶようです。花粉症のようなアレルギーも水毒による病気の一つのようです。水は体を巡り必要な物質を届け、不要なものを排出する役割を持っていますので、水が停滞すると、全身に悪影響を及ぼすというのです。水

田は、あえて水をためて稲を栽培するので、水が溜まるのがいつも土壌環境として悪いわけではありません。しかし、畑作や稲の直播を行う場合には「水毒」は著しい悪影響を及ぼします。このような水が過剰にある土壌を扱う論文については、水田に関する研究蓄積も豊富な「日本の土壌物理の専門誌」である本誌に投稿して頂ければ幸いです。身近なところに転がっている難問を感覚の近い研究者と共有できるメリットが大いにあります。最後になりますが、想定以上に厳しい本誌の査読プロセスに対し、その趣旨をご理解いただき、長い期間忍耐強くお付き合いいただいた執筆者各位に対して、敬意を表し、お礼申し上げます。

吉田修一郎（編集委員）

土壌物理学会

事務局構成	会 長	長	裕幸	(佐賀大学)	
	副 会 長	江口	定夫	(農業環境技術研究所)	
	庶務幹事	中野	恵子	(農研機構 九州沖縄農業研究センター)	
		宮本	英揮	(佐賀大学)	
	編集幹事	渡辺	晋生	(三重大学)	
	会計幹事	近藤	文義	(佐賀大学)	
	会計監査	中川	啓	(長崎大学)	
		徳本	家康	(佐賀大学)	
	編集委員会	委 員 長	取出	伸夫	(三重大学)
		委 員	小杉	賢一朗	(京都大学)
		千葉	克己	(宮城大学)	
		釣田	竜也	(森林総合研究所)	
		中川	啓	(長崎大学)	
		中辻	敏朗	((地独) 北海道立総合研究機構)	
		橋本	洋平	(東京農工大学)	
		諸泉	利嗣	(岡山大学)	
		宮本	輝仁	(農研機構 農村工学研究所)	
		望月	秀俊	(農研機構 近畿中国四国農業研究センター)	
	吉田	修一郎	(東京大学)		